

# 事業の概況

## 経営環境と業績

### ●金融経済環境

当中間連結会計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に翻弄されながらも、経済活動の通常モードへの復帰を探る動きが続く展開となりました。この間、個人消費がサービス関連を中心に低調に推移したものの、企業の生産活動は輸出回復とともに徐々に持ち直しました。後半にかけては、ワクチン接種の進展とともに経済活動本格化への道筋が見え始める一方で、半導体不足の長期化、部品供給の停滞、原油高などが次第にリスク要因として意識され、それまでの改善テンポは鈍化し期待と不安が交錯する中で期を終えることとなりました。

### ●営業の経過及び成果

#### (連結)

(主要勘定)

預金・譲渡性預金残高は、個人を中心に預金が増加したものの、譲渡性預金が減少したことから、前連結会計年度末比619億円減少して8兆6,259億円となりました。

貸出金残高は、大企業を中心にコロナ禍での資金ニーズが一巡したこともあり、前連結会計年度末比380億円減少して6兆214億円となりました。

有価証券残高は、国内債を中心に償還再投資による残高維持に努め、3兆2,091億円となりました。

総資産については、現金預け金の増加などにより、前連結会計年度末比2,734億円増加して12兆5,473億円となりました。

次に損益状況については、資金利益は、国内貸出金利息や、株式配当金を中心に有価証券利息配当金が増加したことなどにより、前年同期比46億47百万円増加して411億96百万円となりました。

役務取引等利益は、投資信託販売手数料などの預かり資産関連収入及びM&A手数料などの法人取引関連収入がともに増加したことなどにより、前年同期比20億6百万円増加して72億73百万円となりました。

その他業務利益は、国債等債券損益を中心に、前年同期比2億76百万円減少して19億52百万円となりました。

上記により、連結粗利益は、前年同期比63億77百万円増加して504億22百万円となりました。また、連結実質業務純益は、連結粗利益の増加に加え、営業経費が減少したことにより、前年同期比66億4百万円増加して220億39百万円となりました。

経常利益は、連結実質業務純益が増加する一方、与信関連費用が増加したため、前年同期比39億9百万円増加して192億85百万円となり、これらの結果、親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比28億32百万円増加して137億62百万円となりました。

セグメント別の業績については、当行グループの中心である銀行業において、経常収益は、前年同期比35億31百万円増加して538億65百万円となり、セグメント利益(経常利益)は、前年同期比37億47百万円増加して、177億80百万円となりました。

また、その他において、経常収益は、前年同期比3億34百万円増加して61億52百万円となり、セグメント利益は、前年同期比1億62百万円増加して15億18百万円となりました。

#### (キャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、コールマネーの増加や日本銀行からの資金供給による借入金等の増加等により3,336億円の収入(前年同期は2,279億円の収入)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却・償還などにより141億円の収入(前年同期は1,310億円の収入)となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いにより22億円の支出(前年同期は22億円の支出)となりました。この結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、当中間連結会計期間において3,455億円増加し、2兆9,073億円となりました。

#### (単体)

預金・譲渡性預金の当中間期末残高については、前事業年度末比597億円減少して、8兆6,572億円となりました。

貸出金は、前事業年度末比381億円減少して、当中間期末残高は6兆310億円となりました。

有価証券は、前事業年度末比203億円減少して、当中間期末残高は3兆2,125億円となりました。なお、このうち時価会計に伴う評価差額(含み益)は、当中間会計期間中67億円減少して、当中間期末現在で1兆164億円となっております。

次に損益状況については、経常利益は前年同期比37億47百万円増加して177億80百万円となり、中間純利益は前年同期比26億61百万円増加して128億11百万円となりました。

## 主要な経営指標の推移

### ●連結経営指標

(単位：百万円)

	2019年度中間期	2020年度中間期	2021年度中間期	2019年度	2020年度
連結経常収益	60,547	55,077	58,909	113,823	108,156
連結経常利益	18,151	15,375	19,285	29,232	23,765
親会社株主に帰属する中間純利益	12,874	10,930	13,762	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	20,383	16,860
連結中間包括利益	54,804	193,265	6,207	-	-
連結包括利益	-	-	-	△8,475	337,633
連結純資産額	900,493	1,026,020	1,172,166	834,987	1,168,153
連結総資産額	9,536,774	10,791,468	12,547,384	10,078,463	12,273,908
連結ベースの1株当たり純資産額	11,881.77円	13,535.56円	15,461.63円	11,014.90円	15,413.67円
連結ベースの1株当たり中間純利益	170.44円	144.61円	182.00円	-	-
連結ベースの1株当たり当期純利益	-	-	-	269.81円	223.03円
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり中間純利益	170.20円	144.47円	181.82円	-	-
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-	-	-	269.41円	222.78円
連結自己資本比率（国内基準）	11.96%	11.38%	12.00%	11.43%	11.72%
営業活動によるキャッシュ・フロー	△152,589	227,970	333,659	115,379	1,437,527
投資活動によるキャッシュ・フロー	81,078	131,021	14,162	40,173	82,176
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,288	△2,270	△2,271	△7,555	△4,538
現金及び現金同等物の中間期末残高	821,832	1,403,351	2,907,347	-	-
現金及び現金同等物の期末残高	-	-	-	1,046,629	2,561,796
従業員数	3,708人	3,651人	3,645人	3,562人	3,553人

### ●単体経営指標

(単位：百万円)

	2019年度中間期	2020年度中間期	2021年度中間期	2019年度	2020年度
経常収益	55,676	50,333	53,865	103,913	98,086
うち信託報酬	3	4	5	17	12
業務純益	12,931	13,496	17,656	25,496	26,763
経常利益	16,833	14,032	17,780	26,634	20,625
中間純利益	12,409	10,149	12,811	-	-
当期純利益	-	-	-	19,159	14,878
資本金	42,103	42,103	42,103	42,103	42,103
発行済株式総数	75,840千株	75,840千株	75,840千株	75,840千株	75,840千株
純資産額	885,971	1,010,199	1,152,615	820,328	1,149,793
総資産額	9,523,744	10,778,035	12,533,014	10,065,875	12,256,073
預金残高	6,975,414	7,529,506	8,074,423	7,123,494	7,996,106
貸出金残高	5,531,510	6,019,608	6,031,079	5,828,449	6,069,212
有価証券残高	2,923,431	2,997,494	3,212,588	2,870,856	3,232,904
1株当たり配当額	30.00円	30.00円	35.00円	60.00円	60.00円
単体自己資本比率（国内基準）	11.52%	10.96%	11.50%	11.02%	11.24%
従業員数	3,588人	3,538人	3,525人	3,378人	3,380人
信託財産額	1,524	3,875	4,524	3,178	4,170
信託勘定貸出金残高	-	-	-	-	-
信託勘定有価証券残高（信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高を除く。）	-	-	-	-	-
信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高	-	-	-	-	-

(注) 1. 2020年5月1日付の銀行法施行規則の改正に伴い、2020年度中間期より「信託勘定有価証券残高」に含まれる「信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高」を区分して表示しております。なお、2019年度以前の「信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高」については該当事項はありません。

2. 2021年度中間期の1株当たり配当額35円のうち5円は創立80周年記念配当であります。